

専門発展科目の科目概要(4) -実践領域-

科目区分	科目名	科目概要
実践領域 (GC)	英語エクспRESSION実践	英語を使って相手に伝わる表現の仕方や的確な情報提示をするために必要な理論、語彙力、そしてコミュニケーション上の姿勢をふまえ、グループワークや会議で実際に活用できる表現力、プレゼンテーション能力を実践的に鍛えることを目的とする。具体的には、英語による表現や意思疎通の特性などを理解したうえで、友人から会社の同僚に至るまで、さまざまなコミュニケーションの場面を設定し、実践的なシミュレーション練習を重ねることで表現能力の向上を図る。
	韓国語エクспRESSION実践	韓国語を使って相手に伝わる表現の仕方や的確な情報提示をするために必要な理論、語彙力、そしてコミュニケーション上の姿勢をふまえ、グループワークや会議で実際に活用できる表現力、プレゼンテーション能力を実践的に鍛えることを目的とする。具体的には、韓国語による表現や意思疎通の特性などを理解したうえで、友人から会社の同僚に至るまで、さまざまなコミュニケーションの場面を設定し、実践的なシミュレーション練習を重ねることで表現能力の向上を図る。
	中国語エクспRESSION実践	中国語を使って相手に伝わる表現の仕方や的確な情報提示をするために必要な理論、語彙力、そしてコミュニケーション上の姿勢をふまえ、グループワークや会議で実際に活用できる表現力、プレゼンテーション能力を実践的に鍛えることを目的とする。具体的には、英語による表現や意思疎通の特性などを理解したうえで、友人から会社の同僚に至るまで、さまざまなコミュニケーションの場面を設定し、実践的なシミュレーション練習を重ねることで表現能力の向上を図る。
	国際コミュニケーション・スキル	日本語が少しわかる人と話すとき、どんなふうに言えば、わかりやすいのか。この授業では、まずシンプルな「やさしい日本語」で、日常会話から案内、災害時の情報提供、職場での会話まで行う方法を学ぶ。それから、英語や韓国語など学修している外国語で同じメッセージを伝えてみる。どちらも段階を追って、複雑な内容を加えていくことができるが、最初の一步は、最も大切な点が伝わり、文脈のつながりが理解されることである。その具体的な方法を工夫しながら身につける。
	マルチ言語プロジェクト	この授業では、「国際コミュニケーションスキル」で学んだ「やさしい日本語」を使って、協働の場面での会話を実際に工夫しながら行う。次に、英語や韓国語など学修している外国語で同じ場面を想定し、メッセージを伝えてみる。それに慣れたら、より複雑な内容を加えて、その具体的な方法を練習によって身につける。
	プロジェクトツアーA	これまでに学んできた関係構築力・調整力およびコミュニケーション能力を発揮し、海外の研修先におけるグループワークへの参加や現地企業訪問などを通じ、異文化の環境における協働作業に必要な視点や実践的なスキルを学ぶ。具体的には、事前の準備を経て現地研修プログラムに参加し、現地での活動成果を持ち帰り、報告会の形で発表を行う。
	プロジェクトツアーB	プロジェクトワークの趣旨を理解し、学力・人物ともに対応可能と判断された学生を対象に、海外での語学修得に加え、インターンをベースとした活動に加わるなどして協働作業の成果を形にするための実践研修科目である。具体的には、ビジネスに必要な語学力に加え、インターン活動を通じて協働作業に必要な思考法や実践的スキルを学ぶ。事前の準備を経て現地研修プロジェクトに参加し、関係構築力・調整力およびコミュニケーション能力を駆使しての活動成果を発表を通じて形にする。
実践領域 (心理)	心理学基礎実験	心理学基礎実験では、精神物理学的測定法を中心に心理学実験を実体験する。これらの実験結果を用いて図表による効果的な表示、統計的处理、報告書の作成について学修する。グラフの作成方法(方眼紙に手描きする)および実験レポートの書き方についても併せて指導を行う。これらの実体験を通じて、心理学における基本的な実験の手続きや手順ならびに心理学実験に臨む態度を養う。
	心理学実験A	心理学研究で必要とされる、基礎的な実験法ならびにデータ処理・報告書の作成等について実習する。心理学実験演習Aでは、独立変数と従属変数の設定、精神物理学的測定法、要求水準、認知的葛藤などの実験を体験する。結果を図表による効果的な表示、統計的推定と検定、報告書の作成について学修する。グラフの作成方法および実験レポートの書き方についても併せて指導を行う。これらの実体験を通じて、心理学における実験的研究法の手続きや手順とを学ぶ。
	心理学実験B	心理学研究で必要とされる、基礎的な実験法ならびにデータ処理・報告書の作成等について実習する。心理学実験演習Bでは心理学実験演習Aで学習した内容を基盤に、各テーマを通じて実験計画法、実験法・観察法・評定法などを用いたデータを収集、分散分析法をはじめとする統計的分析による実験仮説の検証、報告書作成について学習する。これらの実体験を通じて、心理学における実験的研究法にもとづく観察態度や心理的思考を学ぶ。実験レポートの迅速な作成についても修得する。
	社会心理学調査実習	質問紙調査、及び面接調査等の質的データの収集について、そのすべての過程を実習形式で体験的に学ぶ。年度ごとに調査テーマを設定し、たとえば地域住民に対して種々の社会的事象に対する態度調査を行い、地域特性を把握することで見えてくる地域の課題を探ることを通じ、調査の方法と調査対象に対する理解を深める。
	心理検査法実習	各々の心理検査の使用目的を明確に理解するとともに、定められた課題や刺激の提示を誤りなく行うことの意義を理解した上で実施することができ、その検査の目的に応じた臨床像を描けるようになることを目指す。この授業では、性格検査、発達検査、知能検査のいくつかについて、実習を通じてその使用目的や特性に対する体験的に理解することを目的とする。

	心理学的アセスメント	人間理解の手段として心理検査が用いられることがあるが、心理検査結果の誤用の危険性を排除し、適正に活用するためには、検査の成り立ちやその特性、及びその限界について十分理解しておくことが重要である。この授業では、このような心理検査について概論的に取り上げるとともに、心理検査以外の行動観察などを通じて人間を全人的に捉え、その臨床像を立体的に描く手法について、講義を中心に学ぶ。
	臨床心理学演習	「臨床心理学」の講義による学びを前提とした授業内容を展開する。さまざまな心理療法やカウンセリングのあり方について、カウンセリングの基本となる傾聴技法をロールプレイを通じて理解を深め、実践的に学修する。さらに事例を取り上げて、心理学的な支援に関する具体的アプローチを演習形式で学ぶ。本科目については、2年次に開講される「臨床心理学」を履修した上で臨むこと。
	心理演習	心理学の所属ゼミ以外の学生間の研究交流、及び専門領域の異なる他ゼミ教員からも指導を受けることを可能とするために心理学ゼミ合同で授業を行う科目である。受講者による①研究構想発表、②研究計画発表、③研究中間発表、④研究結果発表を中心としながら、文献検索の方法や各種リソースの利用方法、研究法の選択、研究倫理、データ分析、論文文化の作法について、研究の構想から成果発表までの流れに沿って演習形式で学ぶ。
実践領域 (福祉)	社会福祉士演習Ⅰ	本講義は、社会福祉士国家試験に関する重要事項・頻出事項を理解するため、単元ごとの繰り返し学習を行い、自己課題や到達目標に向けた姿勢を養う。具体的には、次のことを学び、修得する。①これまで修得した科目の内容を振り返る、②自己の不足している知識を整理する、③社会福祉士としての目的意識を高める。
	社会福祉士演習Ⅱ	本講義は、社会福祉士国家試験に関する重要事項・頻出事項を理解するため、単元ごとの繰り返し学習を行い、自己課題や到達目標に向けた姿勢を養う。また、社会福祉士国家試験の合格を目指す。具体的には、次のことを学び、修得する。①これまで修得した科目の内容を振り返る、②自己の不足している知識を整理する、③社会福祉士としての目的意識を高める。
	ソーシャルワーク演習Ⅰ	本講義では、ソーシャルワークの価値規範と倫理を実践的に理解するとともに、ソーシャルワークの実践に必要なコミュニケーション能力を養う。また、基本的な面接技術とソーシャルワークの記録の仕方を修得する。具体的には、次のことを学び、修得する。①自己覚知（自己理解と他者理解）、②基本的なコミュニケーション技術、③基本的な面接技術、④ソーシャルワークの記録。
	ソーシャルワーク演習Ⅱ	本講義は、ソーシャルワークの知識と技術に係る科目との関連性を視野に入れつつ、幅広い分野の事例に触れ、ソーシャルワークの視点について理解するとともに、専門的援助技術として概念化・理論化し、体系的立てていくことができる能力を修得する。具体的には、次のことを学び、修得する。①ソーシャルワークの価値規範、倫理的な判断能力、②ソーシャルワークの視点、③専門的援助技術の概念・理論、④総合的かつ包括的な支援。
	ソーシャルワーク演習Ⅲ	本講義では、ソーシャルワークの展開過程において用いられる、知識と技術を実践的に修得すること。また、支援を必要とする人を中心とした分野横断的な総合的かつ包括的な支援について実践的に理解する。具体的には、次のことを学び、修得する。①ソーシャルワークにおける面接技法、②具体的なソーシャルワーク場面及び過程。
	ソーシャルワーク演習Ⅳ	本講義では、地域福祉を推進するためのコミュニティソーシャルワークと地域の特性や課題を把握し解決するための、地域アセスメントや評価等の仕組みを実践的に理解する。また、ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と展開過程、実践モデルとアプローチについて実践的に理解する。具体的には、次のことを学び、修得する。①コミュニティソーシャルワーク、②地域アセスメントや評価等の仕組み、③ミクロ・メゾ・マクロレベルにおける対象と展開過程、実践モデルとアプローチ。
	ソーシャルワーク演習Ⅴ	本講義では、実習を通じて体験した事例について、事例検討や事例研究を行い、その意義や方法を具体的に理解するとともに、実践の質の向上を図るため、教員によるスーパービジョンについて体験的に理解する。具体的には、次のことを学び、修得する。①ソーシャルワーク実践の意義や方法、②スーパービジョン。
	ソーシャルワーク実習指導Ⅰ	本講義では、ソーシャルワーク実習の意義について理解する。また、社会福祉士として求められる役割を理解し、価値と倫理に基づく専門職としての姿勢を養う。具体的には、次のことを学び、修得する。①ソーシャルワーク実習の意義、②社会福祉士専門職としての姿勢。
	ソーシャルワーク実習指導Ⅱ	本講義では、ソーシャルワーク実習の意義について理解する。また、ソーシャルワークに係る知識と技術について具体的かつ実践的に理解し、ソーシャルワーク機能を発揮するための基礎的な能力を修得する。具体的には、次のことを学び、修得する。①ソーシャルワーク実習の意義、②ソーシャルワークに係る知識と技術。
	ソーシャルワーク実習指導Ⅲ	本講義では、ソーシャルワーク実習の事後指導の意義を理解する。また、ソーシャルワーク実習を振り返り、実習で得た具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化・理論化し体系的立てていくことができる総合的な能力を修得する。具体的には、次のことを学び、修得する。①実習体験や実習記録を踏まえた課題の整理、②実習総括レポート。
	ソーシャルワーク実習Ⅰ	この科目は、厚生労働大臣が定める実習施設において、援助対象となる利用者の状況、想定される制度やサービス・資源の状況、地域の状況、施設・機関等組織の状況、専門職の役割を理解し、ソーシャルワークが職種として担っている業務全般を体験的に理解する。
	ソーシャルワーク実習Ⅱ	この科目は、厚生労働大臣が定める実習施設において、ソーシャルワークの実践に必要な知識と技術を用い、社会福祉士としての価値と倫理に基づく支援を行うための実践的能力を修得する。